

## お知らせ

## 殿

インフルエンザ（A型、B型）です。

安静に留意し、頭部を冷やすなどしてなるべく40℃を越えないようにしてください。解熱剤はあまり効果がありませんが、使用の際はアセトアミノフェン（カロナール<sup>α</sup>やANHIBA<sup>α</sup>など）を使用しましょう。異常行動の発現のおそれがありますので、少なくとも2日間は患児が一人にならないよう配慮してください。

完全に解熱し 元気もよく 咳もなくなった状態で48時間\*つづけば、登校登園してよいと思いますが、学校や園の指示にも従ってください。

\*タミフルですぐに解熱した場合は72時間



竹田子どもクリニック

〒233-0012 横浜市港南区上永谷2-11-1-112  
TEL 045-846-1088 FAX 045-845-8038  
E-mail mail@takedakodomo.com  
HP http://www.takedakodomo.com

院長 竹田 弘

日本における  
タミフルの予防投与について



【対象】原則として、インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族又は共同生活者である下記の者。

- (1) 高齢者（65歳以上）
- (2) 慢性呼吸器疾患又は慢性心疾患患者
- (3) 代謝性疾患患者（糖尿病等）
- (4) 腎機能障害患者（用量に注意のこと）

【用法・用量】成人及び13歳以上の小児には

1回1カプセル(75mg)を1日1回、7～10日間経口投与する。

【注意】次の点に注意してください。

- (1) インフルエンザウイルス感染症患者に接触後なるべく早く、2日以内に投与を開始すること。
- (2) 予防効果は、本剤を連続して服用している期間のみ持続します。
- (3) 6週間を超えて投与した経験はありません。
- (4) 発症をかなり抑えることができますが、まったく発症しなくなるわけではありません。
- (5) 予防投薬には健康保険が使えません。

文責：竹田弘（第3版2007.01.20）

タミフル<sup>®</sup> カプセル75  
ドライシロップ3%



【効能】A型およびB型インフルエンザ感染症  
【用法・用量】

成人は 回 カプセルを 日2回、5日間。  
幼小児は指示量（ドライシロップ剤として体重15kgで1回1g）を1日2回、5日間。

\*症状発現から2日以内に投与を開始しなければ効果は期待できません。

\*細菌感染症には、本剤は全く無効です。

【副作用】腹痛や下痢・嘔吐などを催したり、意識障害や異常行動の報告もあります。インフルエンザそのものの症状との区別が難しいこともありますので、変わったことがありましたら投与を中止し診察を受けてください。

腎機能障害のある患者さんは服用前に主治医や薬剤師にご相談ください。

【相互作用】今のところ相互作用が問題になる薬剤はありません。

【小児への投与】1歳未満の児に対する安全性及び有効性は確立していません。

10歳以上の未成年者は、原則として本剤の使用を差し控えること。（本剤服用後に異常行動を発現し、転落等の事故に至った例が報告されているため）

【その他】カプセルはシートから取り出して服用してください。ドライシロップはよく水に溶かしてからのおみください。吸湿性がありますので保管に注意してください。

【薬効別分類】抗インフルエンザウイルス剤

【有効成分】リン酸オセルタミビル  
oseltamivir phosphate

\*シーズン中に繰り返して本剤を使用した場合の効果と安全性は検討されていません。

文責：竹田弘（第8版2007.03.21）